



千葉県版

NO.436

2024年10月15日

発行所

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

千葉県本部

〒260-0854

千葉市中央区

長洲1-10-8

自治体福祉

センター1階

電話

090-7909-0849

(小松 敦)

FAX

043-441-5094

Eメール

a-komatsu@jk9.

so-net.ne.jp

千葉県「版」編集部

連絡先 七里一司

電話・FAX

047-314-8714

中島辰猪生誕120年・没後92年の法要

9月27日、東京都葛飾区青戸の法問寺に眠る中島辰猪の生誕120年・没後92年の法要が執り行われました。法要には、辰猪の故郷・愛媛県から辰猪の実弟・山下敏さんの子、阿柚子さんと、阿柚子さんの子、由里さんが参加されました。また、『医療は万民のもの』を掲げ、志なかばで斃れた医師 中島辰猪の著者・藤田廣登さんをはじめ、国賠同盟中央本部の吉田万三会長、千葉県の小松実会長、七里一司副会長夫妻など20人が参加しました。法問寺の鈴木智祐住職は法要の中と、その後の挨拶でも「天皇中心の戦前、医療にかかることのできない市民のために献身的に医療活動をされた」として、中島辰猪の業績をたたえました。

(写真と文 七里一司)

千葉県本部創立

50周年講演会に

ご参集を

「無産者医療に

生涯をかけた医師

中島辰猪」

講師 藤田廣登さん



治安維持法国賠同盟
千葉県本部会長

小松 実

治安維持法国賠同盟は、1968年3月15日に結成されました。当時の会員数は、190名だったそうです。それから

遅れること6年、1974年の12月14日に、「千葉県支部」が結成されました(当時は各県が「支部」として組織されたようです)。日本共産党の千葉県委員長も務めた小松七郎さんが支部長でした。10月の埼玉支部に続く、全国2番目の支部でした。

創立50周年を記念して、先に「いまにつながる治安維持法体制に決着を」(小松実、荻野富士夫、藤田廣登、共著)を出版しましたが、今度は記念行事として、表題のような講演会を企画しました。

藤田廣登さんはこのほど、中島辰猪の評伝『医療は万民のもの』を掲げ、志なかばで斃れた医師 中島辰猪(学習の友社、1500円)を出版されました。

11月16日(土)午後2時から、千葉市生涯学習センターの小ホール(地下)です。ぜひ、お出かけください。

治安維持法 国賠同盟

千葉県本部

事務局から

国賠同盟千葉県本部理事会が、9月20日開かれました。

冒頭、小松実会長は「今日は、まだ1名の拡大しかしておりません。11ヶ月2桁拡大を続行させるには、今後の奮闘にかかっています。わたしども三役も頑張りますが、各支部の取り組みにも期待しておりま

す。お互いに力を合わせ2桁拡大をやりとげましょう」と力説しました。

1、会員拡大

◆9月も10ヶ月続く、二桁拡大を継続させましょう。

◆各支部は、飯島喜美頭彰碑建立募金者や学習会・講演会・映画上映会の参加者に入会を呼びかけましょう。

2、国賠署名

◆10月号より県版「不屈」に、

10筆、20筆、30筆などの署名を集められた方の氏名を掲載します。(理事会決定)

◆会員は、署名をいつも持ち歩き知人に会ったら署名をお願いしましょう。

3、映画「伊藤千代子」の取り組み

◆県同盟が持っている債権活用で、民青が9月15日に上映会を開催しました。いすみ市では、11月17日に上映会を行います。その他、計画中のものを具体化させたいと思います。

4、報告事項

◆三役会は、9月4日(臨時)と9月10日の2回おこない、理事会提出の議案等について審議しました。

◆9月10日、「不屈」発送作業をおこないました。参加者は、小松実、高橋妙子、渡邊喜代子、小松敦、七里一司の各氏。

◆9月11日、飯島喜美頭彰碑建立実行委員会が開催さ

れ、同盟から小松実、小松敦、七里一司の各氏が出席しました。

◆9月13日、同盟の全国常任理事会が開かれ、小松実、高橋妙子、小松敦の各氏が参加しました。

◆房総のいしずえ追悼会(10月20日)

◆関東ブロック交流集会(12月15日〜16日に延期)

◆歴史探訪の旅(2025年5月8日〜9日)

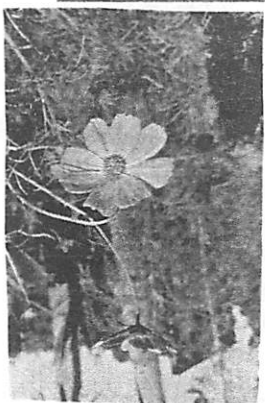
5、理事会等の日程

◆三役会と「不屈」発送は、10月17日(木)、11月12日(火)。

◆理事会は、10月21日(月)、11月19日(火)。いずれも午後1時から4時まで。

コスモス

(写真 七里)



房総



イスラエル軍の攻撃で、パレスチナ・ガザ地区の住民は、どこにも安全な場所がなく、生き延びるため逃げまどい、死者は4万人を超えた◆イスラエル軍は、難民キャンプや、住民の避難所となっている学校、医療施設、救急車も攻撃。亡くなった子供は1万6千人以上、女性1万1千人以上、約1万人がガレキの下敷きになっていて行方がわからないという◆グテレス国連総長は、「多くの人々が絶望的な人道状況におかれ、繰り返し避難を余儀なくされてきた。民間人の保護は国際人道法の最優先事項だ」と語った。ターク国連人権高等弁務官は、国際人道法は紛争下で民間人に避難を命じ、避難を禁じていると指摘。条件を満たさない場合は「強制移動となり、それは戦争犯罪だ」と述べた。◆イスラエルのガザ攻撃への抗議行動が全世界に広がっている。さらに抗議の輪を強めよう。

(七)

会員拡大

会員到達は、689名

9月の会員拡大は12名、退会は〇でした。11ヶ月連続2桁拡大を達成しました。会員到達は、689名となりました。

国賠署名

署名到達は、

個人 950筆

団体 2筆

9月の署名数は、258筆で到達は950筆となりました。

・9月2日、

船橋支部 8筆

・9月2日、松戸市

錦 和熙 2筆

・9月2日、松戸市

浅利 正 2筆

・9月10日、白井市

間嶋 博 2筆

・9月10日、八千代市

大亀 孝 20筆

・9月13日、

藤田 10筆

・9月15日、山武市

竹内栄太郎 5筆

・9月15日、旭市

・9月20日、東京・練馬区 5筆

北見 愛 2筆

・9月24日、柏市

藤田廣登 9筆

・9月24日、佐倉市

宮本博子 5筆

・9月25日、

市浦支部 32筆

・9月25日、

千葉市支部 166筆

飯島喜美顕彰碑

建立募金

募金総額は、

394万7550円

募金は、8月10日現在、715人の方より累計で394万7550円寄せられました。心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

国賠署名10名以上集められた同盟

員を紹介します

8月の同盟本部理事会で、

県版「不屈」10月号より10名、20名、30名と署名を集められた方を紹介することが決まりました。紹介は、1ヶ月ごとに支部名と名前を紹介し

ます。尚、支部に所属しない県本部所属の方は、行政区と名前を紹介いたします。

来々5月の国会請願行動日に向けて、同盟員の皆さんのご奮闘をよろしく願っています。

20筆以上

千葉市支部

市浦支部

八千代市

佐倉市

10筆以上

千葉市支部

千葉市支部

千葉市支部

千葉市支部

千葉市支部

千葉市支部

千葉市支部

千葉市支部

30筆以上

千葉市支部

市浦支部

市浦支部

柏市

古瀬直子

田中長義

塙 基子

藤田廣登

20筆以上

千葉市支部

市浦支部

八千代市

佐倉市

細沼啓二

七里一司

大亀 孝

鈴木 勉

10筆以上

千葉市支部

千葉市支部

千葉市支部

千葉市支部

千葉市支部

千葉市支部

市浦支部

市浦支部

県本部

小林美子

林 和江

玉川寛治

椎葉照代

鈴木完吉

藤田まつ子

美勢麻里

竹内義忠

小松 敦



国賠同盟

全国常任理事会での

小松敦事務局長の

発言

—9月13日—

各支部の多彩な

取り組みを通じて、

10ヶ月連続二桁拡大

—現在、飯島喜美顕彰碑
除幕式と県同盟創立50周
年記念講演会、映画「わが
青春つきるとも」の上映会の
成功をめざし奮闘中—

千葉県を取り組みを報告し
ます。県事務局長の小松敦で
す。

千葉ではこの秋から年末にか

けて、県同盟創立50周年記
念講演会、飯島喜美顕彰碑除
幕式、「亀戸事件とその周辺」
をめぐる亀戸ウオーク、印旛
支部結成総会、など数多くの
取り組みが予定されています
が、端的に報告します。

最初に会員の拡大ですが、
次年度の目標750名、純増8
8名を目指してスタートしまし
た。来年6月までに達成する
ためには、退会を考慮すると
毎月二桁拡大が欠かせません。
7月も8月も月末最終日に何
とか達成し、10ヶ月連続での
二桁拡大を続けています。大
きな要因は、原則的な取り組
みができていることだと思いま
す。

一つは、支部の多彩な取り組
みです。例えばDVDを観る集
いや学習会、多喜二ウオーク
など、その取り組みにキチンと
拡大を位置づけることです。
もう一つは、役員の頑張りで
す。昨年入会されたSさんが、
地元の佐倉に支部をつくるこ
とに奔走し、拡大でも、「今

月の二桁拡大までアト何人
すか」と連絡が来ます。そして
8月も5名を拡大しています。
今後二桁にこだわっていき
たいと思います。

次に、飯島喜美顕彰碑建立
です。2年前の8月に共産党
北部地区委員会の敷地が利用
できることになり建立の話が
本格化しました。その11月に
実行委員会を立ち上げ、翌2
3年1月の、犠牲者名簿『特高
警察が踏みについた人びとの
記録』千葉県編』の出版記念
講演会を弾圧の中心地のひと
つ、匝瑳市で開催し、取り組
みがスタートしました。

当初は、顕彰碑の完成を喜
美没後90周年の12月。建立
費300万円を目標に昨年6
月から募金活動を開始しまし
た。ちょうど日本共産党創立
100周年の時期と重なり、戦
前の活動、特に女性の活動が
注目され、昨年10月には30
0万円を突破しました。現在
は募金者700名を超え、約4

00万円に達しています。全国
の国賠同盟の皆様にもご協力
をいただきありがとうございます。
ました。

建立時期も1年前倒しし今
年12月18日、喜美の命日に
除幕式を行います。

碑文は「不屈の日本共産党
員 女工哀史を超えた紡績女
工 飯島貴美」です。

除幕式には、日本共産党か
ら常任幹部会員の広井暢子
さんが出席されます。今日配
布された大阪の「不屈」には、
「治安維持法100年プレ企
画」として、飯島喜美顕彰碑
除幕式に参加するツアーとし
て計画されています。千葉よ
り取り組みがすすんでいます。
何としても成功させたいと思
います。

「創立50周年記念講演会」
ですが、千葉県同盟は、197
4年12月14日、千葉県支部
として創立しました。初代の
支部長は小松七郎さんで、千
葉県では昔から「小松」が頑張

(次ページにつづく)

支部機関紙・

支部だより紹介

支部が発行する機関紙や支部だよりを紹介します。今回は千葉県支部です。

千葉県の県都

千葉市支部が

「おたより」の

「不屈」第1号発行



千葉県の県都で活動する千葉市支部は、会員拡大で毎月奮闘し、現在二百数十名の会員を抱える大所帯となっています。

事務局長の渡邊喜代子さん

は、「千葉市支部も早く支部機関紙を発行したい」と言っておりましたが、念願かなって今回第1号が発行されました。千葉市支部の「不屈」NO1の9月号は、多彩な記事が載っています。

はじめに「みなさん、暑い日が続いていますが、いかがお過ごしですか！ 千葉市支部の活動をお知らせする『おたより』をお届けします。楽しく、ためになる！活動めざし、よろしく願います！」と書かれています。記事の内容は、

- ①仲間増やしと国会請願のとりくみ
- ②ブックレット「いまにつながる治安維持法体制に決着を」の学習会を市内全域で開催しましょう
- ③「検見川事件」慰霊祭
- ④多喜二逗留の地 七沢温泉をたずねる旅（11月29日、30日）
- ⑤千葉市母親大会と支部役員会のお知らせ、などです。

（前ページのつづき）
つてきた歴史をもっているようです。

11月に計画している記念講演は、千葉医大を卒業し、千葉北部無産診療所の医師でもあった中島辰猪について藤田廣登さんが講演します。今月6日に県民医連にも要請し、会場からの挨拶や参加の要請。そして発刊されたばかりの『医療は万民のもの』という中島辰猪の冊子の普及もお願いしてきました。

次に、映画「わが青春つきるとも」の取り組みです。今月15日に民青主催の上映会を行います。参加者の確保に苦労しているようです。11月にはいすみ市、千葉駅から電車で1時間程ですが、地域のサークルの主催で100人規模の上映会を計画しています。藤田さんのサインセールや舞台挨拶と交流などを計画、そして当日は市長が会場から挨拶することを快諾してくれました。

最後に、映画「飯島喜美」の

取り組みです。すでに喜美の地元・千葉では、桂監督の呼びかけでシナリオ検討会が行われたり、映画製作にも関わっています。

映画「わが青春つきるとも」の上映会は、鑑賞者の多くが、稀代の悪法・治安維持法を実感し、呼びかけに応えて多くの方が同盟に加入しています。この上映運動を支えたのは同盟を中心に800を超える「上映債権者」を組織したことだと思っています。

同盟中央へお願いですが、この喜美の映画化についての正式な要請はまだきていないと思います。今後中央本部との方針を示していただきたと思います。以上報告です。

マリガネスイセン（写真 七里）



飯島喜美

顕彰碑完成

9月24日に

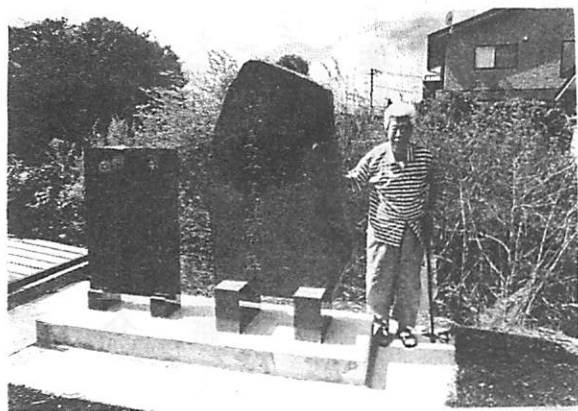
内覧会を行う

飯島喜美顕彰碑が完成し、
内覧会が9月24日、日本共
産党北部地区委員会の敷地
内でおこなわれました。

内覧会には、実行委員会の

完成した顕彰碑を喜ぶ

玉川寛治さん



日本共産党北部地区委員会、
国民救済会千葉県本部、治安
維持法国賠同盟千葉県本部
など関係者の方々が参加しま
した。

また、飯島喜美の評伝「女工
哀史を超えた紡績女工 飯島
喜美の青春」(国賠同盟千葉
県本部発行 1500円)の著
者・玉川寛治さん、映画「わが
青春つきるとも 伊藤千代子
の生涯」の原作者・藤田廣登さ
ん、この映画の監督・桂壮三郎
さんも参加しました。桂監督
は、伊藤千代子の姉妹編とし
て「飯島貴美の不屈の青春」
(仮)の製作を準備しています。

内覧会は、実行委員会事務
局長の小松敦さんの司会です
すめられ、はじめに実行委員
長の小松実さんがあいさつし
ました。

小松実さんは、「飯島喜美の
評伝を書き、顕彰碑建立に大
きな力を与えてくださった玉
川寛治さん、そして、顕彰碑の
敷地を提供してくださった日
本共産党北部地区委員会、さ



内覧会参加のみなさん

(写真は、三浦眞清さん)

らに、700人を超える募金を
お寄せくださった全国の皆さ
んに、心からの感謝を申し上
げます」と述べました。

続いて、玉川寛治さんが参加
者を代表して顕彰碑に献花し、
参加者全員が順次、参拝しま
した。記念撮影終了後、北部
地区委員会会議室で昼食しな
がらの懇談会があり、桂監督
から次回作「飯島貴美の不屈
の青春」(仮)の取り組み状況

の報告などがありました。



(写真と文 七里)

お詫びと訂正
前号(9月号)の4ページ、1段目4行目
の「1974年12月18日」は「1974年
12月14日」の間違いでした。訂正しお
詫び申し上げます。

「検見川事件」

の現場で

犠牲者を慰霊



治安維持法国際同盟
千葉県本部会長
小松 実

関東大震災から101年。震災後、「朝鮮人が暴動を起こした」「朝鮮人が井戸に毒を投げ入れた」などというデマ・流言が、軍や警察も絡んで広げられ、それを妄信した自警団らによって、各地で多数の朝鮮人が虐殺された。

なかには、あの「福田村事件」のように、方言を理由に朝鮮人と疑われた香川県からの行商の人々が、妊婦や幼児を含めて9人も殺される事件も起きている。しかし、それは福田村に限った話ではなかった。

震災から4日後の5日、わが千葉市花見川区の検見川町で

も、同様の事件が起こっていた東京から避難してきていた3人の青年が、やはり言葉がおかしいと疑われ、惨殺された。沖縄・三重・秋田の各県の出身者だった。

「5日午後1時頃、京成線検見川停留所近くで若い男性3人が数十人の自警団に拘束された。風体や言葉が怪しいと疑われた3人は『日本人だ』と弁明したが聞き入れられず、針金で後ろ手に縛られた。200〜300人に膨れ上がった群集が取り巻くなか、殴られたり、罵声を浴びせられたりしながら、『花見川橋』脇の派出所に引つ立てられた。」

「巡査は3人が所有していた警視庁の身元証明書をかざし群集を説得した。しかし、いきり立つ人々は逆に『朝鮮人に味方』する『セ巡査』呼ばわりし、派出所の戸を破り、ガラスを叩き割り、3人を花見川の上引きずり出した。3人は針金で縛られ、日本刀や鳶口

などで殺害され、遺体は川に突き落とされた。」(「新聞うずみ火 2023年5月号」とのことだ。

今日は現地で、ささやかな慰霊式が行われた。「検見川事件」を20年にわたって調査し続けてきた島袋和幸さんの案内を受けて、治安維持法国際同盟千葉支部の仲間10人ほどで参列した。開会前に、島袋さんの現地調査で最近になって判明した三重県の犠牲



用意された3人の犠牲者の位牌

者の父親や兄弟のことなどが説明された。(沖縄や秋田の犠牲者の遺族調査は、困難をきわめているとのことだ。)



お経をあげる国平寺の
ユン・ピョガム住職

犠牲になられた3人の位牌や供物などの準備が整えられわざわざ東村山の国平寺(こくへいじ)から駆けつけてくれた住職のユン・ピョガムさんがお経をあげてくれた。

(次ページにつづく)

これはなんだ

竜巻か！



ただならぬ雲の動き、竜巻発生か！

今年は竜巻が世界各地で発生し、大きな被害がでています。日本では、7月に熱中症で救急搬送された人が過去2番目に多い3万7千人超となつてい

るそうです。私も7月に熱中症で救急車で病院に運ばれそうになりました。急にだるくなり、目がかすみあたりが暗くなり汗がどつとでてきました。立っていられなくなり近くにあった大きな石に寝転んでしまいました。妻が懸命に帽子で風をお

くつてくれたので、なんとかもちこたえました。道行く何人もの方が「救急車呼びましょうか」と、声をかけてくれました。8月号の「不屈」に載せる蓮を撮ろうと、上野の不忍池にいったときのことです。これにこりて、この暑さのうちは出かけるのはやめています。

8月も猛暑でした。「地球沸騰化」(グテレス国連事務総長)が現実の脅威になつています。日本環境学会元会長の和田武氏は「2月に発表された2023年の世界の平均気温は産業革命前から1.45度も上昇。さらに比較する時期を23年6月から24年5月に半年ずらすと1.6度を超えます。このまま1.5度を超える状況が長くつづくと、地峡環境のシステムが急激かつ不可逆的に悪化しつづけるティッピングポイント(転換点)を超える可能性があります」と警告しています。(「しんぶん赤旗」2024年9月3日、3面より)

(写真と文 七里)

(前ページのつづき)

研究者の竹内良男さんに率いられたフィールドワークの方々も加わって、参列者は40人ほどにもなっただろうか。報道の方々が、カメラを向けるなか、参列者が線香を手向ける。二度とこうした過ちは、繰り返させない。過ちの根底には差別と偏見があり、さらには日本による朝鮮の植民地化とその支配の惨さの裏返しとしての恐れがあつた。その差別と植民地支配に、未だに日本政府としてのきちんとした反省が表明されていない。そこをこそ、正していかなければならない、そのために力を尽くしたい、そんな思いを込めて、私も線香を手向けた。

終了後、改めて島袋さんから、事件の顛末などについて、説明があつた。今は、歩行者用信号機が設置されている道路に昔の花見川橋があつた、そこから遺体が見見川に投げ込まれた、派出所はこの辺りと、ま

さに現場に立つての説明は、臨場感にあふれている。



参列者を前に説明する
研究者の島袋和幸さん

今日の慰霊には、現役の大学生や院生も何人か参加されていた。こうした歴史と運動が、若い人たちへと伝わっていることは、何ともうれしい。じわじわと流れ出る汗をぬぐいながら、昨年の4倍に膨らんだ参列者の皆さんとともに、現場をあとにした。

飯島喜美を顕彰する漢詩ができました



治安維持法国賠同盟
銚子支部長
三浦眞清

いま、戦前の女性活動家・飯島喜美の顕彰碑建立事業が進められています。顕彰碑の除幕式は、飯島喜美が獄死した12月18日に行われる予定です。

また、伊藤千代子の生涯を映画化した「わが青春つきるとも」の姉妹編として飯島喜美の映画化も進行中です。

私が所属する新興吟詠会は、伊藤千代子の映画成功の一助として、漢詩「ああ伊藤千代子追悼詩」を作詞、全国各地で吟詠をしました。そこで今回も、飯島喜美の顕彰碑除幕式での吟詠や映画成功の一助として、漢詩をつくることにしました。これが、その漢詩です。

新興吟詠会本部事務局長の園部道香さんが作詞しました。

すでに、大阪では新興吟詠会の会員が吟詠しています。顕彰碑除幕式では東京支部のメンバーが吟詠します。

不屈の青春―

繫南葛の労働者魂飯島喜美
新興吟詠会本部 園部道佳

里落貧農若出村
女功南葛覚真奔
無慚労働不容起
決意罷工団結尊
弾圧虐勝魔拷問
闘争死刻信条魂
生還憲法赤心歩
昂昂民権日本噉

(七言律詩仄起式元韻)

【語彙】

南葛(南葛労働協会は、一九二〇年代の東京に存在した労働組合。大正期の労働運動、社会主義運動をリードした)

赤心(まごころ)

昂昂(こうこう)志、行為が優れ

て高い様

噉(朝日、日の出)

不屈の青春―

南葛の労働者魂飯島喜美に繋ぐ

新興吟詠会本部 園部道佳

里落は貧しき農 若くして村を出る

女功は 南葛の真を覚り奔る

無慚な労働 容すなかれと起つ

決意の罷工 団結 尊し

弾圧 虐く 魔の拷問に勝えん

闘争・死 刻む 信条の魂

ああ喜美が命をかけて求めしは

ジェンダー平等、反戦平和

憲法に生還らん 赤心の歩み

昂昂たる 民権 日本の噉

シルクロードの中継地

ウズベキスタン

もう7年も前のことですが、ソ連から独立した中央アジアのウズベキスタンに行きました。

成田空港からウズベキスタン航空特別便でサマルカンドまで5700キロメートル、約10時間かかりました。

案内してくれたのは、ウズベキスタン人のオクブタエト・トルキンさん。ジョークが得意で、案内前のあいさつでも「みなさん、今日は過ごしやすいです。37度です」というので「えー、37度」というと「ここ数日は、45度でした」という。ウズベキスタンは1年のうち300日は雨が降らないそうで、カラカラに乾燥しているので37度でもあまり暑さを感じませんでした。昼夜の気温差が大きく、夕方になるとぐっと温度が下がり冷え込んできます。

ソ連から独立

ソ連は、15の共和国がありました。1990年(平成2年)、ソ連構成共和国のバルト三国(エストニア、リトアニア、ラトビア)が、連邦離脱法を無視して独立。その翌年の1991年12月25日、ソ連結成から69年後にソ連が崩壊します。同日、ロシア連邦が成立、それ以外の構成国は、独立国としての道を歩むことになります。

ウズベキスタン

ウズベキスタンは、北と西にカザフスタン、南にトルクメニスタンとアフガニスタン、東はタジキスタン、キルギスと接しています。ウズベキスタンは、国境を最低2回越えないと海に達することできない、二重内陸国で137もの民族が共存しています。面積は、日本の1.2倍で人口は3千5百70万人(2024年・国連人口基金)。内陸国の河川流域という特殊上、海へと直接つながっている国内河川はありません。領土の10%に

も満たない感慨農業用地や河川流域のオアシスに似た土地で集中的に農業が行われているといえます。残りの領土は、広大なキジルクム砂漠と険しい山々に占められています。

シルクロードの中継地

中央アジアのウズベキスタンは、シルクロードの中継地でした。東西の文化が交差し、世界遺産も多い。

サマルカンドのレギスタン広場。鮮やかな青いドーム型の屋根や門のモザイク画、砂漠の砂の色を思わせる建物があります。



最初に訪れたのは、「青の都」の異名をもつサマルカンド。ここは常にシルクロードの中心都市としての道を歩んできたところです。サマルカンドでは、伝統的な民族衣装の女性が目立ちましたが、ブハラ、ヒワ、タケシントでは、若い女性は日本と欧米と変わらない洋服姿でした。親日家が多く、どこへいっても誰もが笑顔で手を振ってくれました。とくに、こどもの笑顔が明るいのが印象的でした。親の生活が安定し、教育が無償であることの安心感が笑顔となつているのかなと思います。

(写真と文 七里)

表情が明るいウズベキスタンの親子



読者の文芸



俳句

東京都杉並区 近藤秀雄

- ・対話無き注文寒しタブレット
- ・立ち去りし後の扉や隙間風
- ・掛軸を変えたる居間の淑気かな
- ・我が家の狭(せま)き日だまり初雀

短歌

八千代市 野原隆志

- ・国技館力士のノボリ風に揺れ推しの関取励ましている
- ・国技館つぎつぎ入る外国の旅行者溢れ満員御礼
- ・「二ーハオ」とレジで言われて見渡せば回りは皆外国の人

銚子市 三浦好博

- ・真夏の陽は痛いけれども
- ・公園の清掃誰かがやらねばならぬ
- ・外人といふときそれは白人にて黒人見れば職務質問
- ・世界には「外人」は

居ずみな笑い泣きまた愛する人間ばかり

銚子市 真久絢子

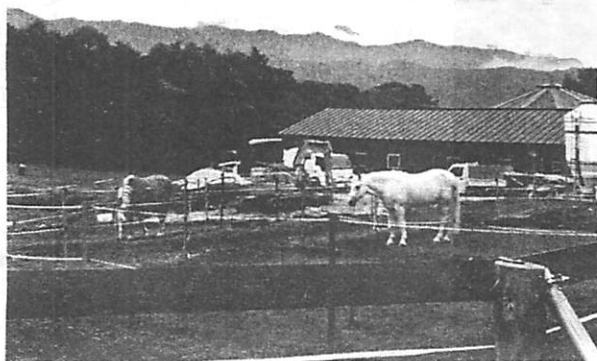
- ・米無くば麵を食せのコメントに
- ・故郷の義妹の毎年送り来る新米今年は手を合わせ待つ
- ・手入れせぬ畑に伸び立ちツンツンと
- ・オクラは角出す負けてはおらぬ

山梨県清里の牧場

2022年10月、山梨県八ヶ岳山麓清里高原の伊予ロジで、関東ブロック交流集会が開かれました。

千葉県から6名が参加し、朝、会議開催前に会場周辺を散策しました。そのとき撮ったのがこの牧場の写真です。空気がすがすがしく、緑に覆われた風景は、一瞬でしたが私たちをのんびりとした気持ちにさせてくれました。

(写真と文 七里)



日本共産党とともに

私の五十年史

(2)

松戸市、一九四六年

十一月入党

(一九一三年一〇月二四日、
二〇一二年一月二八日)

高沢義人



これを契機に関東(千住・草加)と関西(大阪・姫路)をオル

グし皮革労働者を組織し「全国皮革産業労働組合連合」を結成した。この評価で「第二回世界労連ブカレスト皮革イン

ター」に日本代表団長として参加し、三五カ国代議員を前に「日本の安保闘争を報告し

た」。総会後「ソ連」「中国」「朝鮮共和国」の労組に招待され二カ月間交流して帰国後、党中央委員会書記局の西沢、金子健太同志に報告書を提出した。小森和夫プラハ駐在が通

訳してくれた。

六五年松戸に転居し自治会をつくり会長を四期つとめ、六年には松戸市議選に党候補として出馬し四〇名中一四位で当選し先輩市議と共に奮闘

し次回は四議席、次々回は六議席に増やした。また市長選には県常任林長太郎同志指導

で松本清候補と政策協定し党の要求を実現した。その頃私は「脾臓癌」検診にひっかかり

引退し顧問に選任された。顧問として専ら拡大とカンパに微力を尽くした。

(このあと、高沢さんの活動が掲載された「赤旗」の資料が列記がされていますが、割愛させていただきます)

むすび

私は八七歳、妻八二歳(永年党員)結婚六〇年は天皇制・維持法との闘いだつた。二一世紀は「二つの敵」との熾烈な闘いだが歴史の弁証法に確信をもつて党と共に「唯生唯戦」(山

宣座右銘)晩節をきらめか

めたい、「壮にして学べば則ち老いて衰えず、老いて学べば則ち死して朽ちず」(佐藤一斎著言志四録)これが私の座右の銘です。

〇多喜二の計に馳せしは二〇歳寒暑揚げば古希の五体しまり来

〇「高齢者は歴史の先頭を歩むもの」ためらわず惜しみなくいのちきらめけ

(党創立七八周年記念のため)(戦後おわり)

― 完 ―

訂正とお詫び

前号(9月号)の12ページ、後ろから9行目の「鎌田地区委員会」は、「墨田地区委員会」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。



旧前田家本邸

旧前田家本邸は、京王井の頭線の駒場東大駅前の西口より、徒歩7分のところにあります。

加賀百万石大名の子孫の屋敷です。1924年(大正13年)関東大震災の復興計画を機に、隣接する東京帝国大学の敷地拡張のため、駒場農学校との土地交換で、前田家は駒場に移転しました。



日本共産党中央委員会 「特高警察黒書」

編集委員会発行

特高警察黒書

Ⅲ 特高警察の

弾圧の手口

(7)

手首とひざ下には鉄鎖がく
いこんだ跡が深く残っていた。
太股にも麻縄で強く締めあげ
た跡があった。思わず顔をそ
むけたくなるほど陰惨で、む
ごたらしい遺体であった。誰に
でも、ひと眼で、特高警察の狂
暴な拷問によって虐殺された
ことがわかった。わずかに四日前
まで、非常な元気で活躍してい
た岩田義道の頑健な姿とはあ
まりにも変わりはてていた。鈴
木安蔵、太田慶太郎、青柳盛
雄など、この遺体と対面した
人は現存している。また、鉄鎖
がくいこんで、ひざの約三セン
チ下が異常にくびれている跡
や、太股が変色して腫れ上
がっている状態は、残っている写

真で、今日でもはっきりと確認
できる。

岩田義道の遺体は、太田慶
太郎氏など当時の救援会の努
力で、遺族に安田徳太郎医学
博士、布施辰治弁護士が立ち
会って、十一月四日午後三時
半から、東京帝大病理学教室
で解剖された。当時の『赤旗』
によると、遺体には、前記のよ
うな所見のほかに、警察病院
であわてておこなったらしい輸
血の跡があった。解剖の結果を、
当時の『赤旗』はつぎのように
伝えている。

一、胸部と大腿部の腫れは
打撲傷のためであり、そ
の部分には大量の内出血で
、これだけでも致命的で
ある。

二、特高警察側は肺結核と
称しているが、その跡はな
い。

三、特高警察側が偽証する
脚気衝心の症状も全くな
い。

当時の『赤旗』は根拠もなし
にこの解剖の結果を書いている

のではない。

当時、この解剖結果を有力
な物的証拠として、布施、青
柳らの弁護士は、愛知県の郷
里に住んでいた岩田義道の父
母の代理人となつて、下手工の
鈴木、中川、山県らの警部や
巡査、さらに毛利特高課長ら
を、殺人罪等で東京地裁検事
局に告訴したが、検察局は告
訴本人の父母を脅かして、告
訴を取り下げさせてしまった。
岩田義道の告別式は十一月
五日午後、留守宅に約百名が
集まつて厳粛におこなわれた。
その告別式に参加した河上肇
博士の夫人は、安田徳太郎か
ら、解剖結果の覚書を見せて
もらっている。河上夫人は、そ
の覚書を書き写したらしく、
河上肇の『自叙伝』につぎのよ
うに引用されている。

一九三二年十一月四日、東
京帝国大学病理教室に於
いて。解剖番号一九五。

岩田義道氏。三十五歳(数
え年)。

体重六四キロ。
身長一六〇センチ。
脳髓一四四五グラム。
心臓三七五グラム。

心臓は非常に大きく、脂肪
が堆積す。心筋は右筋は右
心が〇・五センチ、左心が
一・〇センチ。右心室は拡
大されて心筋薄く、恐らく
之が死亡の原因ならん。
肺臓は著変なし、肺結核の
所見なし、拡大して出血あ
り。

胸腔内に大量の出血あり。
腹腔内には出血なし。
胃腸その他の内臓器管には
著変なし、但し部分的に諸
種器管に出血あり。

下肢。大腿部の前面後面に
著明な皮下出血あり。これ
が死の誘引ならん。

上肢。所々に皮下出血あり。

★胸腔内の出血は「助手が
ヒシヤクで血液をシリンド
ーに汲み上げたところ、
ちょうど一リットル、すな
わち一〇〇〇立方センチ
(次ページにつづく)

(前ページのつづき)

もあった。これは拷問具の搾衣で胸部をグツと締め上げたための内出血と解してもよかった」と安田博士は述べている(安田徳太郎『思い出す人びと』青土社版)。

この覚書は戦後、安田徳太郎博士が「自分が見せた内容とまちがいないし」と証言している。さらに戦後、岩田義道が虐殺されてから十七年後の一九四九年十一月一日夜、遺体解剖の責任者であった元東大病理学教室教授三田村篤志郎氏が東京・千代田区の自宅に、岩田義道の遺児みさごさんを招いて、解剖結果の真相をつぎのように語っている。

「百九十五番特志解剖というのがあなたのお父さんだったのです。私は岩田さんとはどんな人だとも知りませんでした。皮膚に非常に明らかな傷があった。はつきり覚えてるのは、口角に一カ所、右手首

に一ヶ所で、口の傷は赤ん坊の手ぐらいの大きさで、皮がむけて赤くなっていた。傷のあり場所、大きさ、形などからこれは容易なことではないと思った。事件に関係のあるものは病理学ではなく法医学でやることになっているのでただしたところ、普通に死んだように申し込みがあったということだった。渡辺漸氏が解剖したが、なにかあると思ったので表むきはわたくしが責任者になることにした。安田徳太郎さんに聞いたら、警察にあげられていて、前日に瀕死(ひんし)の状態で警察病院にはこぼれて、一、二時間のち亡くなった。傷は警察でうけたものだ。たしかこのような返事だった。肝臓、ひ臓、胃、脳などにも生命にかかわる病変はない。心臓が大きくふくれて、ペしやんとやわらかなのが目立った。ただ一番変に思っただのは心臓と肺の表面に針でついたような血点が多数あった。中毒や血液の病気などの場合にこういう点状出血が認められるが、胸部だけにあるのは変だ。窒息した場合には胸にだけこのようになるときがある。口に傷があるので、さるぐつわをかませたりして窒息したのではなからうかと思った。もし、死んでから警察病院にきたのなら窒息させて殺したとも考えられる。翌日、本郷警察に呼ばれて調べられたが、ありのままに話した。「窒息死が一番疑わしいのだが、そのようなことはないのか」と聞いたが、警察では肯定も否定もしなかった。」

一九四九年十一月三日付の『赤旗』には右の証言といっしょに、三田村篤志郎氏が岩田みさごさんと対談している写真も掲載されている。虐殺事件の第三者で、遺体解剖の責任者になった三田村篤志郎元東大病理学教室教授のこの証言で、警視庁特高課や警察病院側の「肺結核をわずらい、脚気衝心で死んだ」という発表は完全なデタラメであることが、も

はや反論の余地もなく証明されている。

すぐれた指導者であった岩田義道は、一九三二年(昭和七年)十月三十日から十一月二日まで四日間の拷問で、胸部と大腿部前面と後面の打撲によつて、胸腔内の大量の出血と大腿部前後面のむざんな皮下出血が致命傷となり、さらに声を押さえるための防声具による窒息が最後の死因となつて虐殺されたのである。

特高警察は、岩田義道虐殺の事実や、スパイ飯塚盛延Ⅱ松村の手引きによる検挙であつたことを隠すために、見えすいて卑劣な手段や発表をしている。

特高警察は、「岩田は非常に高価な物を着ていた」と発表しながら、遺族に遺体を引き渡したときの衣類は安物の既製品であつた。ズボンには筋目が正しくついていた。留置場で四日間も坐りづめにされただけでも、筋目は崩れてしまう。

(次号につづく)